

# 日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)

好むと好まざるに  
かかわらず

小さいのちを守る会代表

辻岡健象



主の二〇〇〇年。時代は、好むと好まざるにかかわらず、コンピュータ時代に突入しています(好む・好まざると書きましたのは個人的な好み、また年代差があるからです)。

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい」(マタイ二八・一九、二〇)と、主は大宣教を命じられています。

私たちの伝道団体連絡協議会は、出て行って時代を先取りし、リードしながら、この主の大宣教命令を文字どおり実践する団体です。教会内クリスチャンにとどまってはならないのです。教会外クリスチャンでなければなりません。蛇のごとくさどく、時の流れを知り、時代をリードしなければならぬのです。

デジタル時代となった二〇〇〇年。各伝道団体間の、より効果的な伝道は、より密な連絡と協議と重荷の分かち合いです。各伝道団体間のネットワークです。これを具体的かつ効果的に実現する方法は、コンピュータ・ネットワークが最適です。好むと好まざるにかかわらず……。

幸い、わが伝道団体連絡協議会のメンバーの中に、コンピュータの専門家が多くいらっしやるのも、タイムリーです。このコンピュータ・ネットワークで、「ダイナミックな伝道展開をスタート!」と、ゴングが聞こえてきます。コンピュータ・ネットワークで協力関係をより密にし、祈りあい、協力しあうダイナミックな伝道団体連絡協議会を夢見ています。

## 二〇〇〇年度総会のご案内

日時 四月十日(月)午後二時～四時半  
場所 お茶の水クリスチャンセンター四階会議室  
議題 一九九九年活動・会計報告／二〇〇〇年度役員改選・活動計画・予算／その他  
懇談会 日本伝道会議展示について／一泊研修会について／その他

\* 総会の出欠葉書といっしょに、研修会、伝団協についてのご要望、ご意見をぜひお寄せください。

一泊研修会に参加して

# 二十一世紀の教会は……

日本CCC代表 栗原一芳

## ケータイ礼拝

昨年、十月に行われた伝団連の一泊研修会に出て、大いに啓発された。

二〇〇一年には日本人の人口の約半分がインターネットユーザーになると予測されている。二〇〇三年には各教会がホームページで礼拝風景を伝達し始める。そうするとインターネットで流されている自分の教会の礼拝を出張先から携帯TV電話でキャッチして見るということが可能になる。早起きが辛い青年会の若者は言うかもしれない。「なぜケータイ礼拝じゃないの」

## カフェチャーチ

キリスト教界の脱西洋化が進み、教会のイメージも三角屋根に十字架ではなくなっていくだろう。オフィスの一室、レストランやカフェが礼拝場所ともなっていく。さらには、都会人の

ライフスタイルに合ったミッドナイトチャペルや二十四時間オープンのコンビニ教会も出現するかもしれない。ハイテクだからこそ、ハイタッチ。セルチャーチ運動に見るように建物よりもコイノニア中心の教会形成が進むのではないだろうか。

## 新種の求道者

教会の看板には「どなたでもおいでください」とある。ある教会では女装した男性の求道者が通っているという。先日TVで新婚カップルが紹介されていた。なんとこのカップル、夫が女性で妻が男性なのである。二人とも自分の性が受け入れられず、このような結果になって幸せ？に暮らしているという。さて、こういうカップルが牧師に司式をしてほしいと尋ねてきたらどうするのだろうか？ 性のボーダレス化で教会は新しいチャレンジを迎える。と、まあ二十一世紀の教会を垣間見てみた。

果たして激変する社会環境を教会はチャンスとして生かせるだろうか。伝道団体はどう九〇％にアプローチしていけるのか。神は二十一世紀の人々をも愛しており、クリエイティブな方策を用意しておられるはずである。

1999年10月18日～19日、湯河原厚生年金会館で行われた一泊研修会風景。有意義で熱の入った研修の時でした。



発行日  
発行者  
編集者

二〇〇〇年三月十五日  
羽鳥 明  
小町 誠